

シリーズ 協会各委員会紹介

第2弾

植生調査委員会

植生調査委員会ってどんなことをしているの?という方もいると思いますので簡単に当委員会のことを紹介したいと思います。当委員会では大きく分けて3つの活動があります。

1. 全国各地で年に一度行っているスキルアップセミナー 2. 毎年8月後半頃に3泊4日、群馬県川場村で行っている植生アドバイザー育成講座

3. 植生管理士認定試験

今回は一番のメインである植生アドバイザー育成講座について説明します。毎年、8月の終わりに群馬県の北部にある利根郡川場村にて開催しています。この川場村は東京農業大学がある世田谷区と川場村との間で、区民健康村相互協力協定が締結されている場所で、緑豊かな自然と田園に囲まれた村です。この群馬県川場村は人口4千人程度で山々に囲まれた小さな村ですが、地元農産物の売り上げ日本一にもなったことのある『道の駅川場田園プラザ』や、温泉、スキー場、地酒、農産物、そして綺麗な大自然が魅力ですし、都心からも2時間位で行けるということで多くの観光客が年中訪れるとてもいい場所です。そんな川場村は植生アドバイザー育成講座第一回から16年間お世話になっております。いつも利用している施設のスタッフとも毎年会っていますので田舎に帰るような感覚ですね。この大自然に囲まれたフィールドにて植物や植生学について勉強します。ちなみにうちの委員会メンバーも地元の人はいないですが毎年通ってますのでナビなしでも村内を歩けるくらいになりました。

当初は協会員の勉強の場として始まった植生アドバイザー育成講座ですが、近年では協会員より一般の参加者のほうが多くなっております。例えば、ゼネコン関係者、設計事務所、コンサルタント会社、薬品会社、NPO法人、樹木医、造園業など全国各地から幅広い業種の方々の参加者となってます。また最近は女性の参加者も増えております。



ギンリョクソウも発見出来ます



講義やフィールドにての調査なども勿論大切ですが全国各地から集まつた人達との交流も大変いい思い出となり繋がりも出来ます。授業が終わった夜には講師の先生方とお酒を飲みながら植物同定をしたり仕事のアドバイスをもらったり、先生方の体験談を聞けたりと楽しい時間もあります。3泊4日長いようですが始まるところです。講師の方々は東京農業大学教授をはじめ、実際に仕事で植生復元をしている講師もあり現場レベルの話を聞けます。

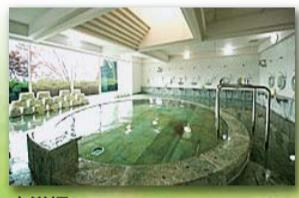
昨年の初級コースであるAコースは沢山の参加申し込みがありました。先着順で定員になり次第締め切りになりますので興味のある方は早めの申し込みをお願いします。ちなみに今年は8月31日~9月3日までの3泊4日で群馬県川場村での開催が決定しております。

委員も実際に山に登って植生調査を講師補助として同行します。また事前に調査地に入り、登山ルートの安全を確認、調査地の選定などで標高1,000メートル以上の山をセミナー中何度も登るという作業を毎年やっており委員長はじめ体力勝負でがんばっております。

参加者の皆さんが充実した研修ができるよう委員一同全面的にバックアップして皆さんをおまちしております。今後とも植生調査委員会の活動にご理解、協力をよろしくお願ひいたします。



夕食はとっても美味しいけど食べきれないほどです



大浴場

特集 新しいワビスケをつくろう

株式会社 アスコット
若林芳樹

ワビスケは数多い椿の中でも特に人気のある品種群です。侘助(胡蝶侘助)、白侘助、紅侘助、初雁、数寄屋、太郎冠者(別名 有楽)など多くの品種が知られています。しかし、ワビスケの成立には諸説があり、謎の多い品種群です。

ワビスケについて解説した図書としては、古い資料で恐縮ですが『園芸春秋臨時増刊第198号(京都園芸第80集「椿」第11特集号「ワビスケ品種群)』があります。この図書は椿の研究家として知られた桐野豊氏が、タキイ種苗の『園芸新知識(花の号)』に昭和55年春より56年秋までの全20篇に「ワビスケ品種群」と題して連載されたものを一部補正し、更に新たに3品種を加えて1冊に取りまとめたもので、昭和57年3月に 財団法人 京都園芸俱楽部(京都府立植物園内植物園会館)より発行されたものです。

桐野氏は本書の中で、「ワビスケ系の品種群は樹齢の若い品種が多数あることから、実生によって新しくできたものであることは想像できるが、ほとんどのワビスケ類は、不稔で種子ができる育種的には行き止まりの品種である。したがって新しいワビスケを生み出す母樹が何であるかの予想は容易につく」とし、「①稔性のあるもの。②子房に密毛のあるもの。③年代的に古典品種であること」の3つの条件を示し、「この条件に合致するのは太郎冠者以外にはない」と結論づけています。

ワビスケの古くからの品種群は、当然どういった経緯で生まれたのかはわからないことがあります。本書によると、太郎冠者は江戸中期の園芸書『本草花譜絵・椿之部(1739・元文四年 伊藤樹久)』に紹介されているとされています。そして、太郎冠者を母樹として決定づける事例として、太郎冠者のF1、F2の実生個体から薬の退化したワビスケ類似品種を作出した例を挙げています。それのことから「既成のワビスケ品種群は、太郎冠者を起源とする実生品種であろう」としています。

私がワビスケに興味を持ったのは、かつて伊豆大島の都立大島公園つばき園の品種同定調査のお手伝いをした折に、桐野氏にご足労いただきお世話になりました。その時に「太郎冠者がワビスケの母樹であろう」というお話を伺い、「興味があったら太郎冠者の種を蒔いてご覧」と勧められた事によります。その後機会があれば蒔いてみようと思っており、育種の詳細な記録は残っていませんが、3粒ほどの種子を蒔いて2株の苗を得ました。

1株は生育が良くなかったことから1年ほど枯らしていましたが、もう1株は順調に生育し現在に至っています。その株の花はどうかといいますと桐野氏の言う通りワビスケタイプの花を咲かせました(写真参照)。比較のた

めに太郎冠者の写真も載せましたのでご覧ください。

写真を見ていただくとよく分かるかと思いますが、太郎冠者の花では雌しべ雄しべとも正常です。種子を結実させるためには雌雄のしべが正常でなければなりません。一方、私のところで生まれた株の花はといいますと、ワビスケ品種群の特徴の一つである薬の退化が見られます。特に雄しべが極端に短くなっているのがわかると思います。桐野氏のお話通り、太郎冠者の種子からワビスケ系の品種が生まれました。

私のところで生まれた株は、これまで一般に知られているワビスケ系の品種に比べ、花形がやや不安定で見劣りするため、園芸品種としての観賞価値はありませんが、私だけのワビスケとして愛培しています。

新しいワビスケの作出には時間がかかりますが、桐野氏のお話のように、太郎冠者の種子を蒔くだけで比較的簡単に作出することができます。ですので、協会の青年部会の皆様にはぜひチャレンジしていただきたいと思っています。播種から開花までには最低でも数年かかりますが、自分だけのワビスケを作り出せる可能性があり、これまでに新しい魅力的なワビスケの品種が作出できれば、園のPR効果ばかりでなく、お金を生み出す新品種となるかもしれません。

部会が音頭を取って多くの会員の方々に種子を蒔いていただき、花を比べてみたら面白い結果が得られるのではないか。各園独自の素晴らしい品種が作出されることを期待しています。



ワビスケの母樹とされる太郎冠者



我が家で生まれたワビスケ品種、薬の退化がはっきりと分かる



我が家で生まれたワビスケ品種の横顔



**特集 竹はポピュラー、なれど不思議な植物⑤
竹が広がる、「竹害だ」と!
そうとは言えません!**

渡邊政俊

近年、山の上まで竹林になっているところが目立つ。数年前、熊本県でモウソウチクが若いスギ造林地に進出しているのを見た。その様子がとても特徴的だったので説明したい(写真1)。このケースは、造林地の左の山裾に生えていたモウソウチクが造林地の中央に向かって進出(緑矢印)し、さらに上方へと拡大分布する様相を呈している(赤矢印)。こうした状況を報道機関では「竹が猛威をふるっている! 竹害だ!」と叫ぶ。しかし、その造林地が本当に大切なら、「進入して来た竹をタケノコのうちに切り払えば済む話ではないか。なぜ放置しているのか!」と反論したい。

ところが、2004年6月24日、NHKが番組:クローズアップ現代で「竹林が長年にわたって放置されると、竹林内が栄養不足状態になり、地下茎が外へ広がる(写真2)」と映像とともに説明した。しかし、今から半世紀前の1961年、原生(放置)竹林では立竹密度が最高になるが、現存量としては安定した林分となり、これを地形的極相と発表(1)されているのである。ところが、番組では、竹が栄養不足になると、美味しいところへ広がるのだと、あたかも意志を働くかせる動物のような説明をしているのである。言うまでもなく、植物は環境に適応して生育する生物であり、意志は持たない。言い換えると、竹林がどんなに理想的に栽培管理されていても、隣接地との間に地下茎が進出できない遮蔽物が無ければ、竹は当然隣地にも地下茎を伸ばすのであって、竹林の放置と竹林の拡大とは無関係である。すなわち、「竹林の放置=竹林の拡大」は竹の生態的特徴を無視した説明である。

さりとて、一般にはやはり「竹を植えたいが、広がるので…、と植え付けに消極的な方々が多い。「竹を植えると、どんどん広がり、庭中竹だらけになる」というイメージを持たれるのが普通である。確かに、庭に植えっぱなしでは、その通りになる場合が多い。そこで、地下茎の広がりを止める方法として、一定の深さ(30~50cm)



写真1 熊本県でみた竹林拡大の一例

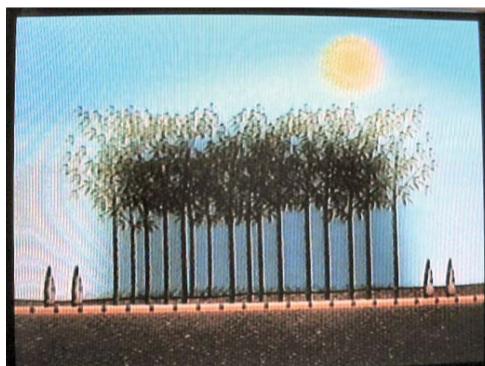


写真2 NHKで放映された竹林拡大のイメージ画面

の溝を掘る方法(A)や遮根板と称される遮蔽材を埋め込む方法(B)が一般的である(写真3)。特に、植物園などではコンクリートを流し込む方法(C)が採用されることが多い。しかし、実際のところ、一般家庭の庭に竹を植栽した場合、地下茎の広がりを完全に止めることは簡単ではない。ところが、高級料亭や名高い庭園などでは特別な施設が施されていないのに、見事な庭園が維持されており、料亭で「竹が猛威を振るって生え、営業出来なくなった」という話は聞いたことがない。

たとえば、京都嵯峨野の名刹大覚寺境内のマダケ林(写真4の左)には遊歩道が敷設されており、その遊歩道には1本の立竹も見られないし、京都大学所管の重要文化財「清風荘」に植えられているクロチクも園路には1本の竹も生えていない(写真4の右)。もちろん、両ケースとも土木的な遮蔽手段は一切取られていないのである。

では、なぜ蔓延しないのか。それは、「出ては困る所に生えてきたタケノコを切り取るだけで防げる」からである。筆者はこれを『タケノコの蹴飛ばし法』と名付けている。この方法は非科学的に思われるが、生理・生態的な理由に基づく手法である。すなわち、タケノコは地下茎の節部にある芽が成長した個体であるから、毎年出てくるタケノコを切り取ることによって地下茎の芽が著しく減少し、ついに地下茎にタケノコになる芽がなくなるのである。また、地下茎の成長も衰えることから、この「タケノコの蹴飛ばし法」は理論的に竹の広がりを防止する最善の方策といえる。



写真4 左: 大覚寺マダケ林 右: 京大清風荘のクロチク

文献 (1) 上田弘一郎・沼田真(1961) 原生竹林の更新とその生態学的研究。京大演報. No.33: 27-54

◆プロフィール
1933年 富山県生まれ。京都外国语短期大学卒。1951~1991年京都大学農学部附属演習林文部技官。この間、故上田弘一郎京大名誉教授の研究を手伝う。1986年九州大学農学博士。1992~2002(隔年)高知大学農学部非常勤講師。1993年以降林野庁特用林産ビジョン検討委員会委員など現在まで竹・タケノコ関連事業委員に就任。元国際協力機構(JICA)専門家(1970~72年タイ、1994、95、97年インドネシア、1996年チリ)。現在、竹文化振興協会専門員、京都市洛西竹林公園専門員。

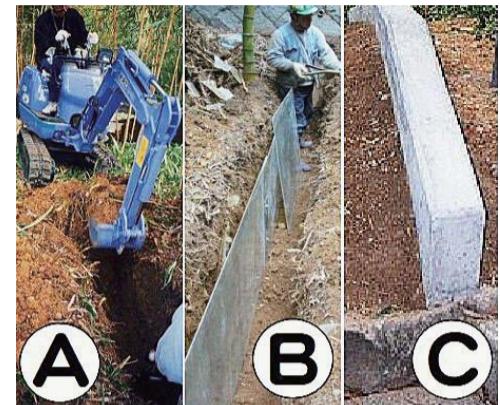


写真3 地下茎の広がりを止める方法

日本列島植木植物園
ナショナルプランツコレクション*

二村貞治 大分県・大分植木株 097-541-1047

コルヌス ステラーピンク
Cornus ×'Rutgan'(Stellar Pink)

今回ご紹介させていただくのはハナミズキとヤマボウシの交配品種、ステラーピンクです。特徴としてはとにかく強い、耐暑性、耐病性が抜群です。若木のうちは樹勢が強いので花つきが悪い傾向がありますが、シンボルツリーや景観樹としてばかりでなく、街路樹などにも適しています。ここ大分では10年ほど前からヤマボウシの代わりに使用頻度がかなり高くなっている樹木で、暖地でも見事な紅葉を魅せます。

*ナショナルプランツコレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

オーセブンのホームページ制作サービス ガルテン・ブログ ガルテンブログ 検索

更新がとにかく簡単なホームページです!**パソコン** で簡単更新

専門知識はいりません!

専用テンプレートを組み合わせるだけで
写真と文字を自在にレイアウトできます!**スマートフォン** で簡単更新

いつでも、どこからでも

落ちちでデスクワークに取り組む時間を確保しにくいお庭関連業界、ガルテン・ブログならスマートフォンからでも質の高い記事制作が可能です。
ウェブベースのツールなのでタブレットやPCでもご利用可能です。エクステリア造園 CAD・ホームページのことなら
オーセブン株式会社〒338-0004 埼玉県さいたま市中央区本町西6-4-14
TEL: 048-840-1577 FAX: 048-840-1579**賛助会員紹介**
No.10**オーセブン株式会社**

お知らせ

コンテナ部会 国内研修会のご案内

開催 令和元年7月11日(木)~7月12日(金)
 集合場所 福岡空港
 観察先 熊本県球磨郡(有)石松樹苗園等
 熊本県熊本市(有)芳坂樹苗園、(有)熊本緑化センター等
 ※観察先は変更になる可能性があります。
 費用 30,000円/人程度 解散場所 福岡空港

「樹木識別のポイント講習会」参加募集

植木園場から教室に生きた樹木の枝葉を持ち込んで、似ていて間違いややすい樹種を葉と枝だけに見分けるポイントを学びます。樹木識別のスペシャリストを目指す方におすすめです。なお、会場の都合により参加者は先着順で定員になり次第、締切りとさせていただきます。

1. 日時・場所

①東京会場 国立オリンピック記念青少年総合センター4階
 令和元年6月2日(日) 13:10~16:10

東京都渋谷区代々木神園町3-1

②福岡会場 福岡県緑化センター

令和元年6月15日(土) 13:00~16:00

福岡県久留米市田主丸町益生田1125

2. 講師 川原田邦彦氏、吉澤信行氏、山崎隆雄氏、八木峰夫氏、船橋修一氏、牛嶋克典氏

3. 費用 一般:5,000円、学生:3,000円

4. 定員 各60名

5. 申込締切 東京会場:令和元年5月17日(金)

福岡会場:令和元年5月31日(金)

※造園CPDプログラム認定申請中

6. 問合せ 協会事務局 木谷 03-3586-7361

「環境緑化樹木識別検定試験」実施のお知らせ

環境緑化樹木識別検定試験は、みどり豊かな環境形成に重要な樹木100種類の名前を正しく識別する検定です。

1. 日時・場所

①東京試験会場 東京農業大学1号館241教室

令和元年7月6日(土) 13:00~

東京都世田谷区桜丘1-1-1

②福岡試験会場 福岡県緑化センター

令和元年7月13日(土) 13:00~

福岡県久留米市田主丸町益生田1125

2. 受験料 一般:8,000円、学生:4,000円

3. 申込締切 東京試験会場:令和元年6月21日(金)

福岡試験会場:令和元年6月28日(金)

※造園CPDプログラム認定申請中

4. 問合せ 協会事務局 木谷 03-3586-7361

令和元年度 都道府県別供給可能量調査 開始案内

協会事業である都道府県別供給可能量調査を実施します。全支部の提出に向けご協力をお願いします。
 調査期間:令和元年7月1日(月)~7月31日(水)
 ※6月下旬に入力用システム搭載のCDを支部長及び各支部のIT委員にお送りします。
 ※調査結果は官公庁及び造園関係団体にCD配布し、協会ホームページでも公開し、材料調達時の参考にしていただいているいます。

令和元年度 社園別生産数量調査 開始案内

協会事業である社園別生産数量調査を実施しますので、全社園様の提出に向けご協力をお願いします。

調査期間:令和元年6月25日(火)~7月20日(土)

- ①協会ホームページの会員ページにログインし、IDとパスワードを入力し、社園別生産数量調査入力用システムをダウンロードします。
- ②データを入力します。
- ③データ入力完了後アップロード送信します。
- ※詳細については緑化通信6月号に別紙「入力マニュアル」を同封しますのでご確認願います。

生産数量調査代行入力について

生産数量調査について、エイコスに代行入力をお願いすることも可能です。代行入力は有償となっており、料金の目安は66円/件、及び結果資料の送付料金等となります。希望される方は、下記に電話又はメールをしていただければ、作業詳細書及び入力シートが送付されます。

エイコス 大畠 寿裕

(Tel)045-309-0018 (Mail)sp_ohata@daiary.ocn.ne.jp

- ①入力シートをお送りしますので記入していただき、返送願います。
- ②入力シートから見積書をお送りします。
- ③了承いただいてから作業に入り、入力結果をお送りします。
- ④了承して頂いた結果を調査入力結果とします。

令和元年度 植生スキルアップセミナーのご案内

当日は植生管理士及び植生アドバイザー育成講座の先生方がご案内いたします。伊豆の海岸植生から天城山周辺のブナ林等を観察、調査するプログラムになっております。

1. 日 時: 令和元年6月30日(日)~7月1日(月)
2. 集合: 静岡県三島市 JR三島駅 10:00集合
3. 観察地: 静岡県伊豆半島
4. 定員: 26名(先着順)
5. 参加費: 33,000円(宿泊料、講師料、保険料など)
6. 宿泊: 「山海」静岡県賀茂郡南伊豆町
7. 講義内容: 伊豆の海岸植生からシイ・タブ照葉樹

林、ウラジロガシ照葉樹林、ブナ林までを現地で観察、調査するセミナー

8. 参加申込:

緑化通信4月号に封入されている申込用紙に必要事項をご記入の上、令和元年5月17日(金)までに、事務局FAX(03-3586-7577)でご連絡下さい。参加申込を受け付け後、参加費の振込口座や行程の詳細などの案内をお送りします。

協会事務局 佐藤 03-3586-7361

植生アドバイザー育成講座 受講生募集

講座は全3コースで構成されており、1年目は「A植生調査コース」、2年目は「B植生景観調査コース」、3年目は「C植生復元・モニタリングコース」と、1年ごと段階を踏んで受講していただくことで、植生学の基礎~植生調査手法~データの分析と植栽計画の立案~植栽とモニタリングを体系的に修得できるカリキュラムが組まれています。本講座はその優れた内容が評価され、環境省と農水省共管の「人材認定等事業」の育成事業として登録されております。

1. 日 時: 令和元年8月31日(土)~9月3日(火)

2. 内容:

「A植生調査コース」: 植生学の基礎、日本の植生、植生調査方法、野外実習、データ整理と解析

「B植生景観調査コース」: 植生景観の基礎、植生景観調査方法、野外実習、データ整理と解析、景観区分図の作成と修復計画

「C植生復元・モニタリングコース」: 生態学的緑化方法、植生景観計画に基づいた植栽計画、植生景観に基づく緑化工法事例

3. 講師: 植生学の専門家の先生方で実施いたします。

4. 開催場所: なかのビレッジ(群馬県利根郡川場村中野626)

5. 受講料: 協会員55,000円
 協会員以外63,000円(6月30日までの早期お申込みの方は58,000円)
 (受講料は税込価格、研修費・宿泊費等を含みます)

6. 問合せ: 協会事務局 佐藤 03-3586-7361

イベント情報

| 日 時 | 場 所 | イベント名 |
|---------------------------|-------------------|-----------------------------|
| 2019年4月25日 ~6月16日 | 長野県 | 第36回全国都市緑化信州フェア |
| 2019年4月27日~29日 | 香川県鬼無 植木盆栽センター | 第19回鬼無グリーンフェア21 |
| 2019年4月29日 ~10月7日 | 中華人民共和国 北京市 | 2019年北京国際園芸博覧会 |
| 2019年5月11日~12日 | 東京都立比谷公園 | 第29回(2019年度)みどりとふれあうフェスティバル |
| 2019年5月10日~11日 | ポートメッセなごや | 第10回エクステリア&ガーデンフェア名古屋2019 |
| 2019年5月22日~24日 | インテックス大阪 | 第3回関西農業ワールド |
| 2019年10月9日~11日 | 幕張メッセ | 第13回国際ガーデンEXPO(GARDEX) |
| 2019年10月19日(土) ~27日(日) | 東京都立 日比谷公園 | 第17回日比谷公園 ガーデニングショー2019 |



造園材料販売 造園設計施工

生駒植木株式会社

代表取締役 生駒 順

〒244-0004 横浜市戸塚区小雀町1805

TEL.045-851-1805 FAX.045-852-6068

E-mail: matsu-tora@ikoma-ueki.co.jp

http://www.ikoma-ueki.co.jp

| | | |
|---------|---------------|-----------|
| (旧)後藤英保 | (新)大阿蘇造園(熊本県) | △代表者変更 |
| 享年90歳 | 平成31年2月18日没 | 高橋幸代 |
| | (高橋光太郎氏のご母堂様) | 関六園(神奈川県) |
| | | 高橋詒報 |

| | | |
|----------|----------------|-------------|
| (旧)早瀬工業清 | (新)早瀬三親男氏のご尊父様 | △代表者変更 |
| 享年91歳 | 平成31年4月8日没 | 早瀬工業(岡山県) |
| | | 早瀬三親男氏のご尊父様 |